

PHAYAOLレポート 2006 -06

～シャンティ寮 ダオ・セーソンさん からのメッセージ～



ダオ・セーソンさん



食事当番（野菜炒め）



入寮前の家庭訪問による面接（中学3年生時）

高校3年生 （17歳）パヤオ県 ブーサン郡 マイルンタビー村出身 現在国籍取得手続き中

「わたしの兄は、小学校2年までしか学校に通えず、姉は、中学校卒業後に進学をあきらめました。私は、中学に進学させてもらえたが、家から離れていたため毎日姉とおんぼろのオートバイに2人乗りして、土埃で学校に着くころには、制服の色が変わってしまうような、悪路を通いました。雨期は、替えの服を買う余裕もなく、ぬれたまま震えて授業を受けることもしばしばでした。両親が日雇い仕事などで収入を得られない日は、お弁当は、お米だけでした。学生寮に入ることができて、私の人生は、大きく変わりました。高校に進学することができ、学用品や教科書を買うことができました。勉強に年齢制限はなく、努力すればいつでも、学ぶことができます。私は、与えられた多くの機会を精一杯生かして学びたいと思います。」

奨学金支給者・入寮者 選考基準

各地域にて募集し、その後各応募家庭をスタッフが訪問。次の条件に基づき慎重に選考しています。

1 家庭の状況

- ・両親がいない、母子または父子家庭である。
- ・両親が離婚、祖父母や親戚に育てられている。
- ・両親、またはどちらかが、障害者、重病者である。（あるいは、家族に障害者、重病者がいる。）
- ・経済的に逼迫している。

2 家族の収入と支出

- ・国が定めた最基準より収入が少ない。

3 子どもの生活態度

- ・学校、地域、SVAの活動に積極的に参加しているか。
- ・素行が正しいか。

4 子どもの学校成績

- ・2.0以上（最高値4.0）

シーカーアジア財団・タイ国内奨学金事業 活動状況

北タイ パヤオ県 ポン郡 (シャンティ山口の支援先)

山岳民族のモン、ミエンを中心に貧農の子ども達への支援を行っている。少数民族は、国境沿いの山々に多く居住していたが、政府の定住政策により平地に強制的に居住させられ、タイ人として生活をしなければならなくなった。国籍問題をはじめとする社会制度が未整備であり、未だに偏見・蔑視も根強い。中高年以上は、タイ語が話せないなど、タイ社会への適応は困難である。山岳民族の家庭は、兄弟が多いため、全員に教育の機会を与えるのは難しい。

東北タイ 北部 ルーイ県 チェンカーン郡

東北タイの北部、メコン川のほとりにあり、対岸は、ラオスである。農業を生業とする家庭が多い。農閑期には、両親がバンコクなどの都市に出稼ぎするケースが多いが、現金収入を得ても農業の借金返済・学費・医療費などに使われるため、生活を向上させる余裕がない。ラオスから、安価で大量に流入する麻薬問題や、ラオス人との婚姻関係が多いため国籍、出生届無取得の問題もある。

東北タイ 南部 スリン県 バーンサワイ

カンボジア国境に位置し、人々は、日常的にクメール語を話す。農業を生業とする家庭が多いが、小作などで土地を持たないか、持っていてもわずかな面積であり、収穫は、不安定で少ない。農閑期には両親が都市に出稼ぎするケースが多く、村には高齢者と幼い子どもの姿が目立つ。現金収入を得ても農業の借金返済・学費・医療費などに使われるため生活を向上させる余裕がない。

首都 バンコク スラム地区

タイの急激な経済発展に伴い、都市と地方の経済格差によって生じたスラムは、現在国内に3750カ所あり、その人口は513万人に達する。首都バンコクには、約1600カ所のスラムがあり、やく140万人が住んでいる。狭く小さな家に複数の家族が同居しているケースが多く衛生的・教育的に劣悪な環境であり、麻薬問題を始めHIVの蔓延など、社会問題が凝縮されている地域である。スラム住民は、低学歴かつ職業技術に乏しいため、建築現場や港の、短期契約の単純肉体労働や物売りなど、不安定で低収入の仕事に就かざるをえないケースが多い。

南タイ パンガー県

スマトラ沖地震による大津波襲われたこの地域は、災害から日が経っても住環境はまだ不十分であり、安定した職に就くことも困難である。また、大規模な、惨事による子ども達の傷も深く、長期的な支援が必用とされている。 *2007年末まで復興支援事業としての奨学金支援

● 1日の最低賃金(県別) 単位 バーツ タイ国労働省2006年7月現在

県	バンコク	パンガー	ルーイ	スリン	パヤオ
最低賃金	184	155	144	141	140

円換算は、バーツ×3=円(約)

文—SVAタイ事務所(シーカーアジア財団) 機関誌サイルーンから抜粋 写真—シャンティ山口撮影